

『全国で活動されるお父さん&お母さんの会』紹介レポート

<団体情報>いわき市アレルギーっ子交流会『もぐのび』 <https://www.facebook.com/mogunobi/>

いわき市アレルギーっ子交流会『もぐのび』ができた経緯を教えてください

東日本大震災が起きた2011年の年末。全国のママやプレママが利用する女性専用サイトで、市内のアレルギーっ子を持つママに呼びかけがありました。

最初に集まったのは、5人。それぞれ子どもが中々重度の食物アレルギー、ぜんそく、アトピーをもっていて、日々の言いようのない不安を解消することが目的でした。

定期的集まるようになって、2年。参加者は徐々に増えていきました。メンバーの子どもも成長するにつれ、悩みは多岐にわたるようになり。メンバーも増えたことで、様々なことにチャレンジしてアレルギー疾患への理解を深めたい、周囲に伝えたいと、3年目で市民サークルとして市に登録、いわき市アレルギーっ子交流会『もぐのび』としての活動がスタートしました。

どのような活動をされておられるのですか

『もぐのび』は、もともとアレっ子ママの息抜きの場所。日々の悩みや不安を吐き出して、新たな情報を得て生活を

なるべく楽にすることが目的です。これに加え、市民からもアレルギーっ子について知りたい、という声が聞かれるようになりしました。

そこで、料理教室や講師を招いてのセミナー主催、市の子育て支援団体の集まりに登録、フェアへの参加など、月に一度の交流会のほかに市民への情報発信もおこなっています。

『もぐのび』に対する想いを教えてください

『もぐのび』の基本は、「ママが楽になるための居場所づくり」です。これは、初期参加メンバーの経験がもとになっています。まだ『もぐのび』としては活動していませんが、今よりも情報は少ない状況でした。治療についても先が見えず、誰かに相談できるとも思っています。また、「母親が過保護の責任」という声に、自分を責める毎日だったので。

今でも、「子どものアレルギーは母親の不摂生のせい」とする考えは根強く多くの母親を苦しめています。治療へたどり着く前に数多くの情報の取捨選択もしなければならぬし、成長に合わせて第三者に正確に症状などを伝えなければなりません。アレルギーを持つ子どもの親がしなければならぬことは、数多くあります。それらのことを、たった一人ですることはなかなか難しいこと。仲間が集まることで、負担を減らし、互いの悩みを吐き出して次の人たちの負担も減らしたい。できることは多くはないけれど、活動することでママや子どもたちの生活をより楽しく豊かにしたい。

アレルギーと、ポジティブにつきあえるようになるように。私たちの活動には、そんな思いが詰まっています。

今後はどのような活動をしたいですか

アレルギーを持つ子どもの親で構成されるサークルという特性上、幸いなことに症状が改善されて卒業するメンバーも出てきます。それでも、専門医にたどり着かず充分な指導を受けられていなかったり、周りにどう伝えたらいいのか分からず一人で悩んでい

たりするママは、まだまだ後を絶ちません。このようなママたちが入園学の際にトラブルになつてしまふ、という話もよく聞きます。

治療に関しては専門医が頼りになりますが、そこにたどり着けるような橋渡しの役目として、地方でのアレルギー疾患への啓発は今後ますます必要になると感じています。

アレルギーを持つ子どものママたちがより周囲に SOS を出しやすくなる環境を整え、医療機関や教育機関、その他生活に関わるさまざまな場面で、連携が取れるようになります。そのための下地をママ自身が作れるような流れを作っていきたいと考えています。いつか、わが子のアレルギーで苦しむ親が、生活を制限されて悲しい思いをする子どもが、みんな笑顔になること。それが私たちの願いであり、目標であり、達成したい課題です。



情報スペース